

ドレスデン・フィル×亀井聖矢
サー・ドナルド・ラニクルズ

時代を席卷する
鍵盤の貴公子
亀井聖矢

名門、俊英、巨匠 ——
三者が描く、
伝統と革新の《皇帝》。

亀井聖矢

Masaya Kamei, Piano

©Ryuya Amao

サー・ドナルド・ラニクルズ 指揮
ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団
亀井聖矢 ピアノ

6/22 (月) 19:00 東京芸術劇場コンサートホール

6/23 (火) 19:00 ミューザ川崎シンフォニーホール

6/26 (金) 19:00 文京シビックホール 大ホール

サー・ドナルド・ラニクルズ (指揮)



©Simon Pauly

ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団



©Oliver Killig

公演の詳細はこちらから

6/22・23 は
こちらから



6/26 はこちらから



主催：ジャパン・アーツ (6/22・23) 文京シビックホール (6/26)
(公益財団法人文京アカデミー)

*Sir Donald Runnicles,
Chief Conductor
Dresdner Philharmonie
Masaya Kamei, Piano*

亀井聖矢
動画メッセージ



気高き俊英の、素顔と決意。

亀井聖矢 (ピアニスト) 「自分らしい音楽の道へ——」

ドイツ留学生活のリアルから《皇帝》への熱き思いまで！



2026年3月 ハンブルクにて ©Masato Nakamura

来る6月、亀井聖矢が、サー・ドナルド・ラニクルズ率いるドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団と、ベートーヴェンピアノ協奏曲第5番『皇帝』で共演。留学生活から今回のツアーへの意気込みまで、音楽ジャーナリストの中村真人さんによるインタビューをお届けします。

——今日はハンブルクでお会いする機会をいただいたので、亀井さんのドイツでの生活や活動についても伺えたらと思います。そもそも、なぜ留学先にドイツを選ばれたのでしょうか？

カールスルーエ音楽大学の教授で、世界的に活躍されているピアニスト、児玉桃先生に師事したからからです。レッスンでは「音一音へのこだわりが凄く、それまで「なんとなく」で弾いていた部分に対して、どういう意図を持って音を作っていくべきか、様々な視点からアプローチしてくださいます。自分の音を確立させていくための考え方が非常にプロフェッショナルで、日々吸収することばかりです。

——カールスルーエにはいつからお住まいですか？

2023年秋からです。移住した直後は、その前から決まっていた日本でのコンサートもたくさんあって、2週間おきに日本とドイツを往復するような忙しい日々でした。最近ドイツの

生活がようやく落ち着いて、じっくり新しいレパートリーを増やしたり、準備に時間をかけたことができるようになってきました。

——この6月、ドナルド・ラニクルズ指揮ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団の日本公演で、ベートーヴェンのピアノ協奏曲第5番『皇帝』を弾かれます。その直前にドレスデンの定期公演でも共演されますが、これは亀井さんのドイツでの協奏曲デビューになりますか？

はい。本場ドイツで、しかも王道のレパートリーであるベートーヴェンの『皇帝』を弾くことにはプレッシャーもありますが、とても楽しみです。

首席指揮者のラニクルズさんとは、本拠地の文化宮殿ですでに一度お会いし、ソロを何曲か聴いていただきました。私の解釈を尊重しながら一緒に音楽を作ろうとしてくださっているのを感じましたね。人間的にも温かみがあり、ドレスデン・フィルの重厚な響きの中で共演できるのが今から待ち遠しいです。

——ピアニストから見ると、ベートーヴェンの作品についてどう感じていらっしゃいますか？

ピアノという楽器の発展とともに、この楽器で何ができるかを常に革新し続けたのが、ベートーヴェンという作曲家だと思います。中でも『皇帝』は構築美が素晴らしく、第2楽章の美しさやオーケストラとの対比など、ピアノという楽器の魅力が詰まった作品です。いつか後期のソナタ、特に第31番（作品110）や32番（作品111）など、より内面的な世界にも深く向き合ってみたいですね。

——亀井さんが目標にしているピアニストは？

マルタ・アルゲリッチさんはやはり特別です。あんなに自由で自然なのに、聴き手を惹きつけて離さない説得力がある。どういう次元でどのような演奏が成立しているのか……。本当に尊敬します。先日もバリで彼女のコンサートを聴きに行きましたが、80代とは思えないエネルギー

ギーに圧倒されました。

——音楽を離れている時、好きな過ごし方はありますか？

ひとつは料理ですね。ドイツに住んでいるとやはり日本食が恋しくなるので、アジアスバーで食材を買ってきて、親子丼やトンカツ、焼うどんなどを作っています。外食は高いですし、自分で作るのが一番落ち着きますね。あと、相変わらず「謎解き」も大好きです。脱出ゲームに行ったり、自分で謎を作ったネットに公開したりもしています。謎を解いた時のひらめきや、自分が作ったもので誰かが楽しんでもくれる感覚は、音楽に通じるものがあるかもしれません。

——今後の目標についてお聞かせください。

現代はさまざまな娯楽にあふれていますが、人間が本質的に美しいと感じるものが宿っているのが音楽という芸術だと思います。昨年の（5位入賞を果たした）エリザベート王妃国際音楽コンクールをもって、数字で評価されるコンクールの世界からは一区切りをつけ、これからは一歩ずつ、自分らしい音楽の道を歩んでいきたいです。聴いてくださる方に何かプラスの感情を届けられるよう、ドレスデン・フィルとの公演も全力で臨みたいと思います。

取材・文：中村真人
（音楽ジャーナリスト／ベルリン在住）



2026年3月 ハンブルクにて ©Masato Nakamura

サー・ドナルド・ラニクルズ指揮 ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団

《ソリスト》 亀井聖矢 (ピアノ) 出演◆ 樫本大進 (ヴァイオリン) 出演★

- 6/22 (月) 19:00 東京芸術劇場コンサートホール ◆
- 6/23 (火) 19:00 ミューザ川崎シンフォニーホール ◆
- 6/25 (木) 19:00 サントリーホール ★
- 6/26 (金) 19:00 文京シビックホール 大ホール ◆
- 6/28 (日) 14:00 横浜みなとみらいホール ★

その他の公演

- 6/19 (金) 福岡シンフォニーホール (アクロス福岡) ◆
- 6/20 (土) ザ・シンフォニーホール (大阪) ◆
- 6/21 (日) 愛知県芸術劇場コンサートホール ◆
- 6/27 (土) 所沢市民文化センターミュージス アークホール ◆

問合せ

- ・ジャパン・アーツびあ
(6/22・23・25・28)
0570-00-1212
- ・シビックチケット
(6/26)
03-5803-1111



2026年3月 ハンブルクにて ©Masato Nakamura